

【発表テーマ】

「障がい者との地域づくり 共生・共存！」

北九州市八幡西区穴生地区民生委員児童委員協議会

(発表者役職) 地区会長 (発表者名) 上野 則行

<地域概況>

(1)世帯数 5,790 世帯 (2)人口 11,000 人 (3)高齢化率 23.9 %

<地域の特徴・福祉課題>

- ・北九州市八幡西区の中では都市部で、新興住宅やマンション等集合住宅が多い地域であり、生活保護受給者や外国人居住者が多く、また、穴生地区在住の障がい者の情報等が乏しい。
- ・自治会未加入者も多く、民生委員の確保に苦慮しており、恒常的に欠員状態が続いている。穴生地区民児協の委員の活動意欲は旺盛

<委員数> 男性 5名 女性 11名 合計 16名 (定員：18名)

ア) 「取り組みの目的」

1. 穴生地区に在住又は穴生市民センター利用の障がい者の「地域づくり」

- (1) 穴生地区まちづくり協議会主催、市民センター等行事の障がい者参加と参画支援
- (2) いきいきバリアフリー事業の支援、奉仕 (障害のない児童と障害のある児童の交流・相互理解)

2. 穴生地区民児協活動の充実・強化

- (1) 穴生地区民生委員の欠員問題解決への取り組みとして、地域住民及び関係団体に民生委員活動の周知と理解促進を図る。
 - ・一斉改選時の民生委員・児童委員定数 18 名の確保
 - ・まちづくり協議会、各自治区会への選任方法の事前予告と確認
- (2) 平成 27 年度・28 年度の相談・支援実績の向上
26 年度障害者関係：4 件 (2.6%) → 27 年度：10.0% → 28 年度：12.0%にする

イ) 「取り組みの内容」

<平成 27 年度事業内容>

- ① 穴生地区在住・穴生市民センター利用の障がい者名簿の作成 (対象者の把握)
 - ・現状把握：約 76 名程度 (名簿の整理も良くない) →6 月～7 月調査：116 名 (障害区分別調査)
- ② 障がい者の特性 (勉強会)：年 5 回
(特別支援学校、知的障害者団体等の施設役職員による講義 4 回、自主勉強会 1 回を計画)
- ③ 障害者施設見学：年 2 回
- ④ 障がい者への各種行事への参加案内：年 4 回
- ⑤ 参加者 (障がい者と地域住民) の交流：年 2 回
まち協主催の行事に合わせ、交流会を計画、保護者と懇談
- ⑥ いきいきバリアフリー事業の支援と参画 (実行委員：5 名)



活動メンバー

<平成 28 年度事業内容>

- ①穴生地区在住・穴生市民センター利用の障がい者名簿の更なる掘り起しと支援充実
4月～6月：民生委員・児童委員による再訪問調査
現在 116 名（知的:39 名、身体:72 名、精神：2 名、不明:3 名）→136 名調査
- ②障がい者の特性（研修会・勉強会・講演会・懇談会）：年 5 回
・障団連 2 回、市保健福祉局障害福祉企画課 1 回、自主勉強会 2 回
- ③障害者施設見学：年 2 回
- ④各種行事への参加案内：年 3 回（大人のサロン案内を含む）
・5月、9月、11、2月 民児協定例会後、各障がい者家庭に案内状を配付
- ⑤参加者（障がい者）との交流
- ⑥いきいきバリアフリー事業の支援と参画（実行委員：5 名）
- ⑦27・28 年度民児協活動振興事業 総まとめ
- ⑧活動報告書作成

27 年度・28 年度活動項目

| 平成 27 年度 | | | 平成 28 年度 | | |
|-----------------|-------|----------|---------------|-------|-------------|
| 活動項目 | 月日 | 参加者 | 活動項目 | 月日 | 参加者 |
| 手をつなぐ育成会役員会説明 | 07.08 | 50 名 | 文化祭あのお：3 日間 | 06.10 | 3 日間約 800 人 |
| インクル八千代施設見学 | 07.10 | 民児協 15 名 | 手をつなぐ育成会三役交流 | 06.20 | 三役：8+1 名 |
| 勉強会（共催事業）林氏 | 07.17 | 32 名 | 講演会：区主任児童主催 | 06.29 | 穴生：14 名 |
| 穴生まつり（10/10～11） | 10/10 | 約 1300 人 | 勉強会主催：共生社会の実現 | 07.27 | 計 23 名 |
| 市障団連役員会説明 | 10.22 | 18 名含通訳 | 学習会：障害者について | 08.09 | 計 23 名 |
| 施設見学臼杵市あらかし園 | 12.08 | 民児協 14 名 | 聴覚障がい者との交流 | 09.21 | 23 名+民児 6 名 |
| ふれあい餅つき大会 | 12.12 | 約 300 人 | 穴生まつり（10/8～9） | 10.09 | 約 1300 人 |
| どんど焼き | 01.09 | 約 150 人 | 施設見学（山鹿市） | 10.25 | 民児協 15 |
| 勉強会：差別解消法 | 01.22 | 36 名 | 人権落語（演者：障害者） | 11.19 | 85 名 |
| 市主催タノミーティング 発表 | 02.06 | 市民 250 人 | ふれあい餅つき大会 | 12.10 | 約 250 人 |
| 穴生健康フェスタ | 03.12 | 約 300 人 | どんど焼き | 01.14 | 約 140 人 |
| | | | 研修会（福祉協力員） | 02.22 | 協力員 61 |
| | | | どんど焼き | 03.11 | 約 300 人 |

大人のサロン：毎月第四月曜日：特別支援学校生徒（体験学習） 6 回／年 参加者と交流・体験

○活動に先駆け、知的障害関係の「北九州市手をつなぐ育成会親の会」・「北九州市障害福祉団体連絡協議会」の役員会に出席させていただき、活動主旨説明、協力依頼をした。

「共生社会の実現について」
障団連北原会長を囲んで！



山鹿市「愛隣館」三浦館長と



大人のサロンでの特別支援学校
高等部生徒との交流風景！

ウ)「取り組みによる効果と影響」

1. 当初の目標の達成状況

①平成 27 年度目標

- ・欠員補充問題：3 名中、1 名の補充は出来たが、残り 2 名の欠員は今日まで続いている。
穴生地区まちづくり協議会会議で提案も解決難しい。(町内会組織がない、高齢者地域等)
- ・相談支援(障がい者関係) 10.0%→11.1%で目標達成
- ・障がい者名簿→116 名調査できた(障害区分別作成)

2. 事業方針の結果、方針変更の理由

①平成 28 年度目標

- ・相談支援(障がい者関係) 27 年度 11.1%で目標達成を→12.0%にしたが結果: **10.4% 未達成!**
目標達成に至らなかった。ただ、全体の相談件数はあがった。

| 分野別 | 項目 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | 率(%) |
|-----|-----------|------|------|------|-------|
| 別 | 高齢者に関する事 | 40 | 35 | 73 | 30.3 |
| | 障がい者に関する事 | 4 | 20 | 25 | 10.4 |
| | 子どもに関する事 | 82 | 105 | 120 | 49.8 |
| | その他 | 28 | 20 | 23 | 9.5 |
| | 計 | 154 | 180 | 241 | 100.0 |

- ・更なる支援充実のため再度障がい者名簿掘り起し→116 名から **136 名調査できた。**
- ・民生委員児童委員活動の周知徹底のため一斉改選後：定員 18 名の確保 → 難しい!

3. 事業実施を通じて、実施前には予測しなかった成果や効果

- ①この「民児協活動振興事業」が障がい者団体、行政の中の障害支援課の期待が大きいのに驚かされた。期待感の反響あり。
- ②テーマ「障害者との地域づくり」今思えば、難しいテーマであり、若干の障害者関係に熟知していないと、取り込みにくい。
- ③穴生地区まちづくり協議会行事のつど、障がい者の方々に行事案内状出すも、参加の効果はあまりなかった。ただ、案内状を持って障がい者家庭の訪問で、信頼関係が生まれた。
- ④活動が終わるに当たり、かなりの、勉強会等で障害者関係の知識は得た。

4. 関係者・参加者等の声

- ・この活動を通じて、もっと障害者関係を勉強したい。
- ・各々行事に障がい者の方々が来てきたのは有り難く、主催者側としてもやりがいがある。
- ・大変な 2 年間でしたが、非常に勉強になった。
- ・障がい者の方とも知り合いになり、友達の幅が広がった。
- ・障がい者の参加を促したので、会場に車椅子用スロープ作成。車椅子の姿見て感動。
- ・施設訪問先の皆さんの歓迎には驚いき覚えて、感激した。
- ・勉強会等の講師には、皆さん快く受けてくれた。
- ・障がい者の保護者より、案内状を毎回いただくのは有り難い。娘が知的障害であり、参加するのは二の足を踏む(躊躇する)。
- ・今まで、触れ合うことのなかったことが、この民児協活動振興事業は、この 2 年間、いろんな施設訪問等の中で、私の勉強になった。
- ・この活動が他地区等の民児協に広まることを期待します。民生委員児童委員は(特に世帯担当者)高齢者だけが対象者では有りませんよ! 障がい者も忘れないで下さい
たくさん声…声…声 あり!

エ) 「現状の課題や今後の抱負」

1. 事業を実施する際に、課題、問題点としてあったこと（予測したこと）

- ①障害についての知識が乏しい（障害の程度、手帳等々）
- ②障がい者の特性が理解不足（接し方、関わりが少ない、等々）
- ③信頼関係がなければ、障害の程度等聞けない
- ④誰が障がい者か、名簿等の整理不足、情報がない
- ⑤「地域づくり」のため、声をかけても反応がないのでは
- ⑥実際の参加は望めないのでは
- ⑦受け入れ関係団体への理解（穴生まれ協、穴生市民センター、自治区会等）
- ⑧その他

2. 課題や問題点を解決するために、工夫したこと、心がけたこと

- ①名簿の作成（解る範囲－訪問にて）障害の種類
- ②民児協主催での、施設訪問、勉強会、学習会、研修会等（障害について等）
- ③共催事業を計画、その中で説明、理解（いきいきバリアフリー事業、各実行委員会）
- ④まち協主催の年間 5 回の行事への参加のご案内
- ⑤障害者団体の役員会、三役会への参加説明、交流会等
- ⑥機会を見つけて、訪問、声掛け、信頼度の構築等
- ⑦その他

3. 困ったこと

- ①民生委員としては、ほとんどが高齢者、障害がある高齢者の方々との関わり方が課題
- ②障害児の把握はほとんどできていない（お宅のお子さん障害者ですか？）－聞きにくい！
- ③障がい者との関わりを持つ機会は、皆無に等しい（障害施設等がどこにあるか）
- ④行事案内しても参加いただけない
- ⑤その他

4. 全般的な評価

- ・障害者関係のテーマと言うことで、全国でも一つと聞いて、プレッシャーは感じたが、あらゆる人脈を酷使し、協力を仰ぎ、穴生地区民児協の皆さん全員のやる気で、2 年間頑張った。相談支援の目標達成、障がい者の把握 136 名は、一人ひとり、訪問を通じて、信頼関係を築いた成果であった。各々の行事に全員で障がい者の皆さんに案内状を配布、参加していただいた時は、感激した。これらを通じて、欠員補充 2 名をと様々な計画をたてたが、諸事情のためかなわなかった。全体を通じて、この活動が今後に活かされることを望むものです。

5. 今後の課題

- ①穴生地区民児協として、2 年間障害者関係に興味を皆さん持てたことは、今後の活動に活かされると信じる。
- ②この活動を他地区等民児協にどう繋げるか、また、他地区等障害者関係に興味を示し、活動に取り組んでいただけるか、問題である。もちろん助言はするつもりである。
- ③障害者の把握について、北九州市には障害者：約 76,000 人、民生委員児童委員が福祉台帳で登録把握は：約 6,800 人で 1 割も満たない。これでは障がい者の地域づくり、共生社会の実現は難しい。「福祉台帳の整理、充実、見直し」こそが重要課題と考える。

6. 次のステップの取り組み、継続等

- ①「福祉台帳の整理、充実、見直し」
- ②共生社会の実現

具体的には今は考えられない。将来的には取り組みたい。